

入 選

ぼくの幸せはねこでできている

六年 中村在夢

ぼくの家では三びきのねを飼っています。三びきとも家に来た時期も理由もバラバラです。

一びき目のねこは、ぼくが産まれる前から家にいました。約十三年います。人間でいうと六十八歳、高れい期に入ります。最近あまり動かずずっとねています。でも名前を呼ぶと元気に返事をしてくれます。

二ひき目は、保護ねこ団体から引き取った元のらねこです。こわがりで家に来て四年位経ちますがさわるうとするにげて行きます。食べる事が大好きで鳴いておやつをほしがります。

三びき目は、今年の初めにわけあって引き取りました。来たばかりのころはいかくしてさわるのも大変でした。でもとても人なつっこくて家族皆にすり寄っていきます。大きな体に似合わず鳴き声はとても小さいです。

ぼくは、初めのころはこわくてねを触る事ができませんでした。今は触るのはできるけどだっこはできません。最近えさをあげているのでよってきてくれる事が多くなりました。ねこをなでているとぼくは、とても幸せな気持ちになります。ずっと元気でいてほしいなと思います。いつか来る別れを

想像すると悲しくなります。ねこがいる生活が当たり前すぎて、いない生活は考えられません。三びきいるから一びきいなくなってもと思う人もいるかもしれないけど二三びきとも大切だから一びきでもかけると心に穴が空いてしまうと思います。ぼくは、ねこに遊んでもらっています。ねこじゃらしを見せると飛んできます。ねこの気分がいいと追いかけてくれます。また、ぼくが勉強をしていると、紙のよに乗ってじゃまをします。それがなぜかと疑問に思って調べたら、飼い主がいつもとちがう行動をしているからと分かりました。調べた結果がまるでねこにいつも勉強をしていないと言われているようでショックを受けたけど、ねこが乗ってくるといやされていやな勉強でもがんばろうと思えるからもつと乗ってほしいと思いました。

ねこを飼うということは、楽しいことばかりではありません。ぬけ毛がすごかったり、いろんな場所でつめをといだりこまることも多いです。それでも、それ以上にねこがぼくにあたえてくれるものが大きく、ねこがいてくれるだけでぼくは幸せになります。だからこそ、ねこがぼくにくれた幸せをぼくもねこに返していきたいと思います。動物は人間よりも寿命が短いから、先に別れが来てしまいます。いつかくる別れのときに、この家にいてよかったと思ってもらえるようなお世話をしたいこうと改めて思いました。